

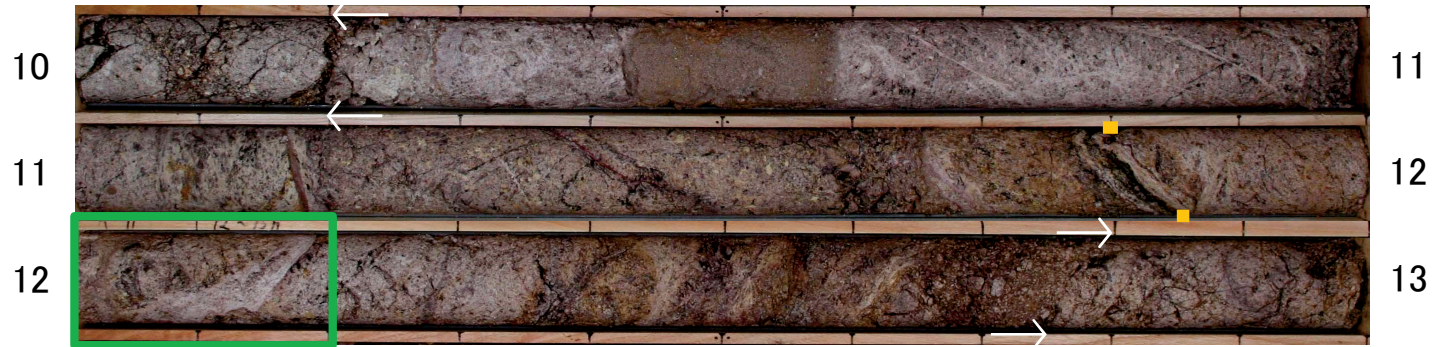
K断層 破碎部性状 H24-A-11 深度10.20~12.76m(肉眼観察による断層岩区分(5/5))

- ・深度11.83~12.12mの「礫状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、やや硬質であり、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度12.12~12.16mの「礫質粘土状破碎部(Hb)」と記載の箇所については、やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められないが、細粒部の幅が膨縮し直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。
- ・深度12.16~12.76mの「粘土混じり礫状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

コア写真

破碎部性状の記事

●10.20~12.76m: 破碎部(K断層) <スライム含む>
 10.20~10.58m: 礫質粘土状破碎部(Hb)
 上下端の境界角度は不明(上端は礫状コア、下端はスライムのため)。径1~5mm石英粒と径5~10mmの一部粘土化、一部岩組織が残留する岩片を含む。白~にぶい橙色を呈する。幅21cm以上。
 10.42~10.58m: スライム
 10.58~11.17m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)
 上端不明(スライムのため)、下端15°で、直線的でシャープに連続。コア全体が変質により軟化。上位側の10.95m以浅では厚さ1~4mm、傾斜60°~80°の白色軟弱粘土脈が多く分布。にぶい黄橙~灰褐色を呈する。幅約58cm。
 11.17m: 粘土状破碎部(Hc-1)
 上・下端15°でいずれも直線的でシャープに連続。径1mm前後の石英粒をわずかに含む。灰赤色を呈する。幅0~5mm。
 11.17~11.19m: 礫混じり粘土状破碎部(Hc-2)
 上端15°、下端10~40°で、上端は直線的でシャープ、下端は大きく波打って連続。径1~2mmの石英粒と径5mmの粘土化した岩片を含む。明赤灰色を呈する。幅7~15mm。
 11.19~11.66m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)
 下端35°で波打つ。岩片の軟化は著しい硬さ[E]であるが、割れ目の一部が残留している。灰褐色を呈する。11.44mの55~70°の割れ目は直線的でシャープなせん断性割れ目、厚さ1~2mmの赤褐色の軟弱粘土脈を挟む。
 11.66~11.68m: 礫質粘土状破碎部(Hb)
 上端・下端ともに35°で波打って連続。径1~2mm石英粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。淡黄橙~灰赤色を呈する。幅18~25mm。
 11.68~11.78m: 角礫状破碎部(Hj)
 上端35°、下端45°で両者とも波打って連続。径5~10mmの岩片の集いで岩片間は粘土化する。割れ目は分布しない。灰褐色を呈する。幅7cm程度。
 11.78~11.81m: 礫混じり粘土状破碎部(Hc-2)
 上端・下端とも45°で波打って連続。径2~3mmの石英粒を含む。淡黄橙~灰白色を呈する。幅20~25mm。
 11.81~11.83m: 粘土状破碎部(Hc-1)
 上端・下端とも45°で波打って連続。中央部には厚さ8mmで、下端部がマンガニ飮染を受けた石英脈を含む。浅黄橙~灰白色を呈する。幅10mm程度。
 11.83~12.12m: 礫状破碎部(Hj)
 上端45°、下端60~70°、不明瞭な20°前後の割れ目や低密着割れ目が多い。灰褐色を呈する。
 12.12~12.16m: 礫質粘土状破碎部(Hb)
 上端60~75°、下端40~60°で両者とも波打ちながら連続。径1~3mm石英粒と粘土化した径5~10mm岩片が多く含む。白色~明赤灰色を呈する。幅20~35mmと膨縮する。
 12.16~12.76m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)
 下端不明瞭。一部で割れ目が残留するが、おおむね割れ目は消滅している。20~25°で白~にぶい橙~明赤灰色、厚さ1~5mmの軟弱粘土を挟む。



凡例

 断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
 ※: 写真上は白色で記載



緑枠部拡大

0 5 cm

K断層 破碎部性状 H24-A-11 深度10.20~12.76m(薄片作製位置)

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面 α は最新活動面



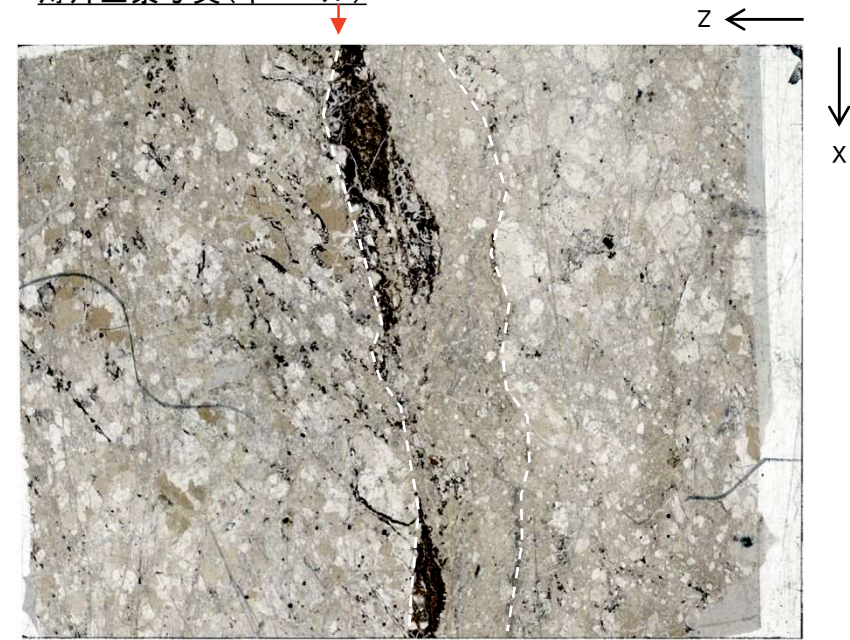
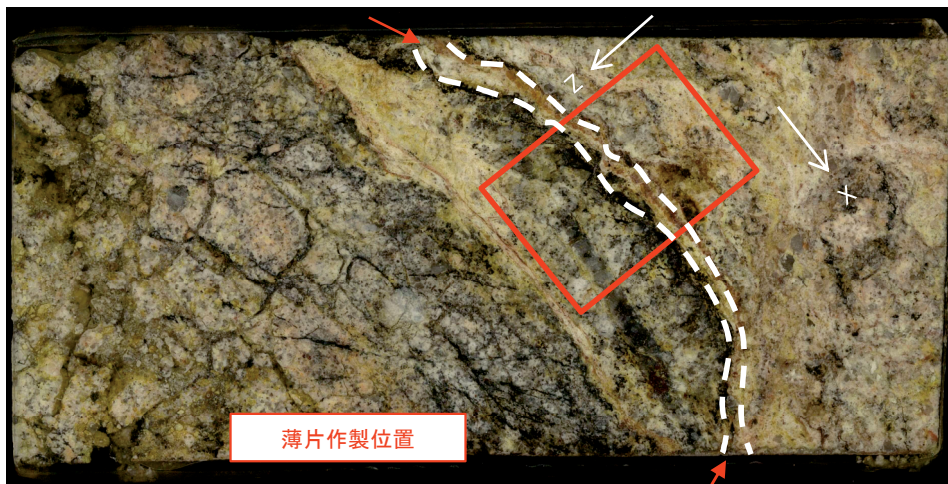
凡例

- 断層ガウジ
- ← → 破碎部範囲*
- 断層面

※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真

薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例

- 断層面
- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲*

※:写真上は白色又は黒色で記載

1 cm

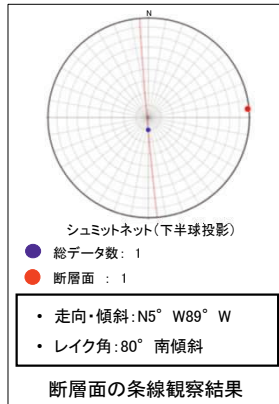
1 cm

K断層 破碎部性状 H24-A-11 深度10.20~12.76m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

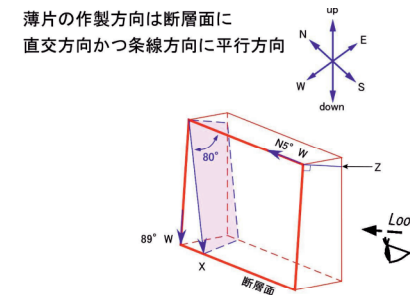
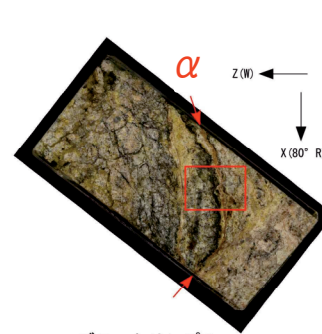
- ・H24-A-11のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層成分※が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。

※ 横ずれ成分と縦ずれ成分の両者が見られる場合、「右(又は左)ずれを伴う正断層成分(又は逆断層成分)」と記載している(以下、同様)

※断層面 α は最新活動面



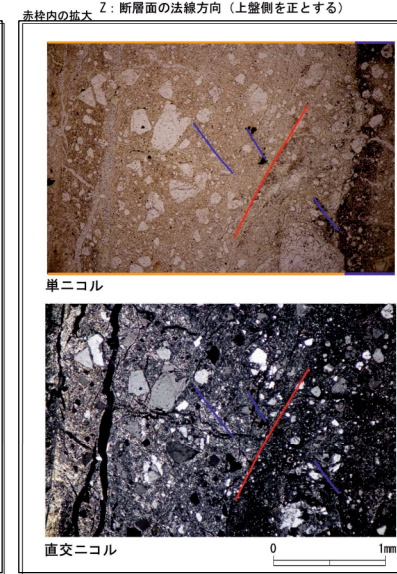
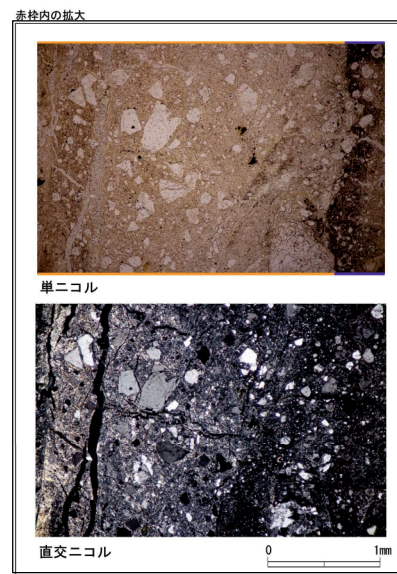
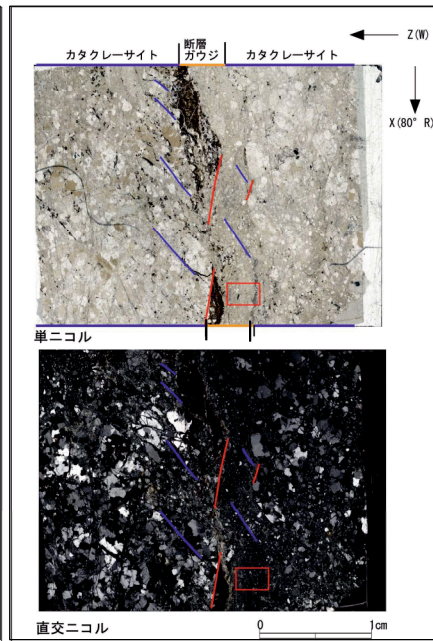
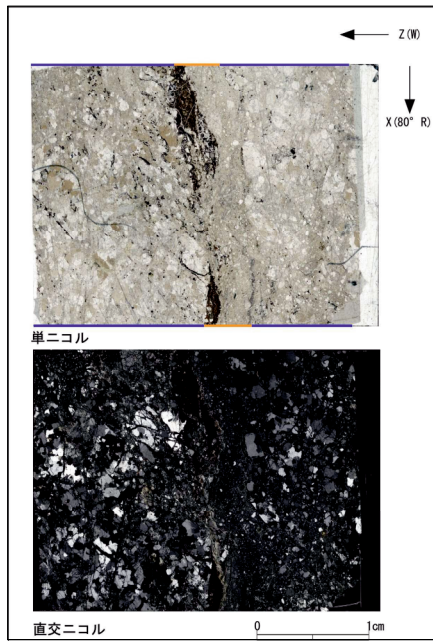
最新活動ゾーン



走向・傾斜 N5° W89° W

X: 条線方向 (下向きを正とする)

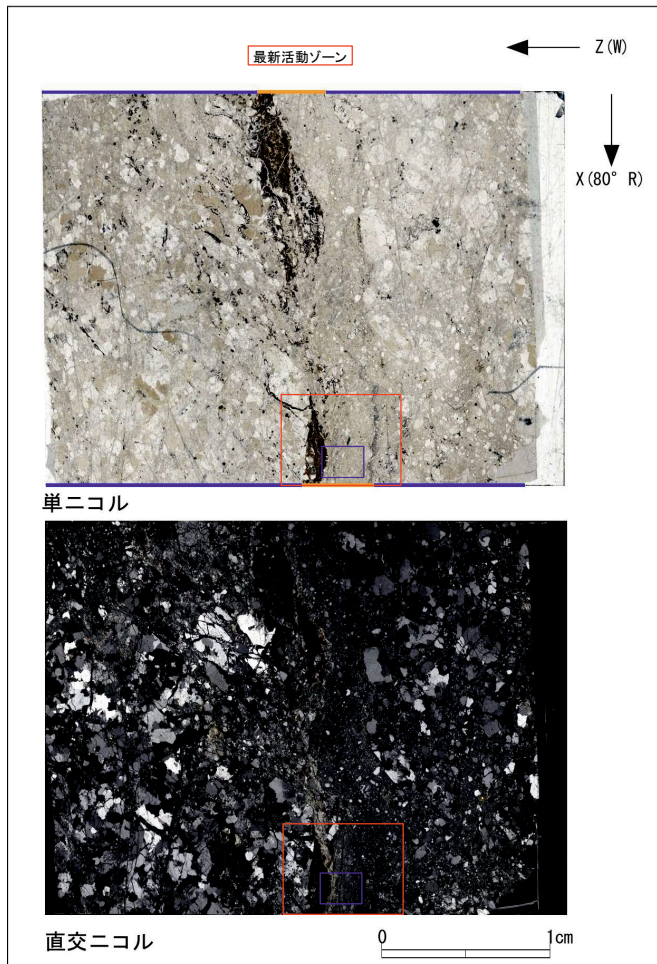
Z: 断層面の法線方向 (上盤側を正とする)



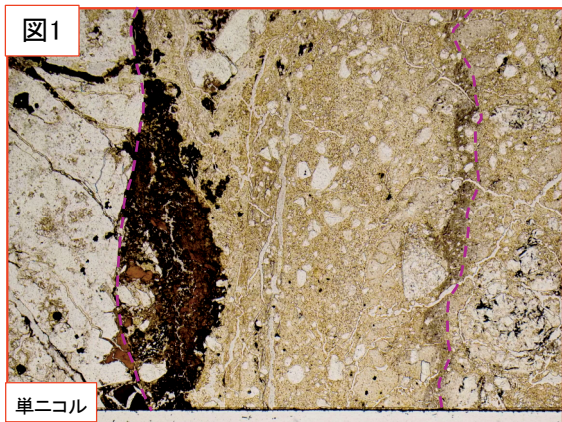
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

K断層 破碎部性状 H24-A-11 深度10.20~12.76m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

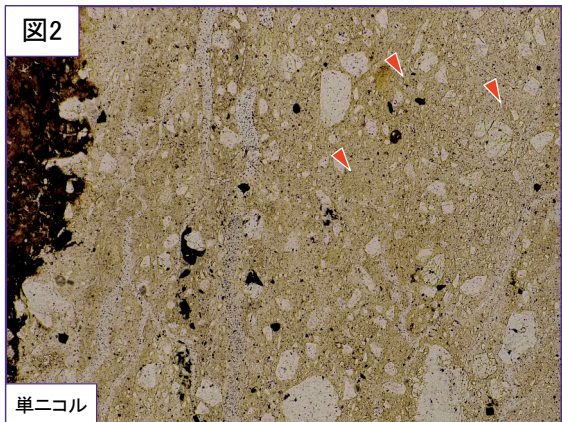
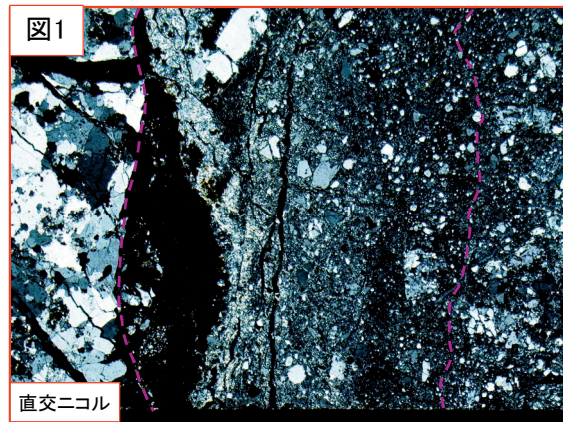
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



凡例
 — 断層ガウジ
 — カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す



赤三角印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す

